

令和 7 年度第 3 回南外地域協議会会議録

令和 7 年 9 月 1 9 日

南外地域協議会

令和 7 年度第 3 回南外地域協議会会議録目次

■開催日時	1
■開催場所	1
■出席委員	1
■欠席委員	1
■出席職員	1
■次第	1
■開会	2
■会長あいさつ	2
■職員紹介	2
■議題	3
1) 大仙市行政サービス改革・DX 推進大綱について (DX 推進課) ……	3
2) 南外地域「彩色千輪プロジェクト」に関する報告について……………	9
3) 地域おこし協力隊活動に関する報告について……………	1 2
4) 地域枠予算事業に関する報告について……………	1 5
■その他	1 7
■閉会	1 8
■署名	1 8

令和7年度 第3回南外地域協議会 会議録

■日 時：令和7年9月19日（金） 18時00分

■会 場：南外コミュニティセンター

■出席委員： 8名

伊 藤 伝 悦、 伊 藤 正 人、 加 賀 正 夫、 加賀屋 由 香、
佐 渡 敏 夫、 佐 藤 喜八郎、 佐 藤 正 行、 進 藤 覚

■欠席委員： 6名

伊 藤 悠、 伊 藤 真紀子、 風 口 宏 子、 今 野 徹、
相 馬 静 華、 高 寺 衛

■出席職員： 10名

○南外支所職員

佐々木 満智子（支所長）	小松 亮（市民サービス課長）
高橋 勉（農林建設課長）	堀井 みわ子（公民館長）
菊地 明憲（地域活性化推進室副主幹）	照井 真央（地域活性化推進室主事）
能條 恵美子（地域活性化推進室地域おこし協力隊）	
小松 久喜（DX 推進課課長）	長谷川 祐城（DX 推進課主幹）
今 暁（DX 推進課主幹）	

■次 第：

- 1 開 会
- 2 会長あいさつ
- 3 議題
 - 1) 大仙市行政サービス改革・DX 推進大綱について（DX 推進課）
 - 2) 南外地域「彩色千輪プロジェクト」に関する報告について
 - 3) 地域おこし協力隊活動に関する報告について
 - 4) 地域枠予算事業に関する報告について
- 4 その他
- 5 閉会
- 6 署名

(18時00分 開会)

○菊地地域活性化推進室副主幹（以下「地域活性化推進室副主幹」と表記）

皆様、本日は忙しいところご出席いただきましてありがとうございます。定刻となりましたのでただいまから「令和7年度第3回南外地域協議会」を開会いたします。

開会にあたり、佐藤会長からご挨拶を頂戴いたします。

○佐藤正行会長（以下「会長」と表記）

皆さんこんばんは。本日は第3回南外地域協議会にご出席いただきまして誠にありがとうございます。

だいぶ日も短くなりまして、この時間このように暗くなってしまいました。間もなく雪が降ってくるのかななんて、急に寒くなってきましたけれども、皆様いかがお過ごしでしょうか。稲刈りも真っ最中ということで忙しい毎日を送っておられると思います。今年は5年に1度の国勢調査というのがあるらしく、10月1日現在の調査ということになりますけれども、この南外地域の人口がどうなっているのか詳しく調査されることと思います。私たちの南外地域でいろいろな行事で活性化をしているわけですが、南外の人口が減っていかないようにアイデアを出してやっていければと思います。

私事ですが先月、南外の方の活躍を発見しましたのでお知らせしたいとおもいますが、ずいぶん昔何十年も前に本を買って読みました。五木寛之さんが書いた本なんですけれども、その五木寛之さんの講演会があるというのを新聞で知って、申し込みました。それが秋田県立大学の企画でおこなった講演会なんですけど、たまたま当選しまして8月5日にミルハスに見に行ったわけなんですけれども、その前半に秋田県立大学の「いつでも青春キャンパス」という65歳以上の大学生を募っている企画がありまして、65歳以上にならないと入れない大学、それも試験をきっちりやって入るものなんですけどその方々の発表会がありまして、5月スタートで今年は3期生なんですけれども、その3期生の中に南外出身のイトウシンゴさんという方がおられまして、1年間県立大学に通ってカメムシの研究をしたという発表がありました。ひとつ上の先輩なので知っていましたが、がんばっておられるんだなと感じました。その65歳以上のキャンパスは5月スタートで4月おわりなのですごく興味がわいて来年の5月から何としようかなと考えたところでした。そうやって地元の人が活躍しているのを見るとすごく感激いたします。そういう方々が増えることを願っております。そのためにいろいろな企画をおこなって南外を盛り上げていきたいと思っておりますので、いろいろな御意見をみなさんよろしくお願いいたします。

今日も一日よろしくお願いいたします。

○地域活性化推進室副主幹

ありがとうございました。それでは議事に入らせていただきます。本日の出席委員数は現時点で8名となっており、2分の1に達しておりますので本会議は成立することをご報告い

たします。本日の議題はその他を含めまして5件であります。また会議録作成のため録音させていただきますことをあらかじめお断り申し上げます。なお発言の際は、挙手の上会長の指名を受けてからお願いいたします。それでは議事の進行は佐藤会長にお願いいたします。

○会長

はい。それでは協議会を始めたいと思います。議題に入る前に、本日の議事録署名委員を指名いたします。本日は佐藤喜八郎委員と進藤覚委員にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。それでは議事を進めてまいりたいと思います。議題①、大仙市行政サービス改革・DX推進大綱について本議題の担当部署である「DX推進課」の担当者の方がいらっしゃっておりますので、説明をお願いしたいと思います。

○小松久喜 DX推進課長（以下「DX推進課長」と表記）

皆さんこんばんは。本日は協議会の貴重なお時間を頂戴して説明の機会をいただきありがとうございます。行政改革の計画策定を現在担当しておりますDX推進課の小松と申します。よろしくお願いいたします。市では平成17年の市町村合併以降、様々な課題に対応していくための行政運営の効率化や財政健全化を推進する行政改革に取り組んできたところであり、現在第5次となる計画として令和8年度から12年度までの5年間の基本的な方針や方向性、具体的な取組をまとめた新たな大綱の策定を進めているところでございます。本大綱ではこれまでの行財政運営の改革と合わせ、行政サービスの向上や業務の効率に欠かすことのできないDX、デジタルによる業務の変革にも具体的にに取り組んでいくこととしております。本日は計画の素案について概要を説明させていただきますので、南外地域のお住まいの皆さまを代表する立場から忌憚のないご意見、ご指摘、ご助言等頂戴いただければ幸いです。どうかよろしくお願いいたします。本日説明のために同席しております担当課の職員を紹介させていただきます。行革・デジタル推進班の班長長谷川主幹でございます。

○長谷川祐城 DX推進課主幹（以下「DX推進課長谷川主幹」と表記）

長谷川です。よろしくお願いいたします。

○DX推進課長

同じく行革・デジタル推進班の今主幹でございます。

○今晚 DX推進課主幹（以下「DX推進課今主幹」と表記）

今です。よろしくお願いいたします。

○DX推進課長

それでは今日お配りの資料に基づいて長谷川より説明させていただきます。

ODX 推進課長谷川主幹

改めまして長谷川と申します。今日はよろしくお願いいたします。私共の説明の資料といたしまして、3部事前にお配りさせていただいております。1つはカラー版の大仙市行政サービス改革・DX 推進大綱についてと書かれている資料になっております。もう一つが冊子タイプの（素案）と書かれております白黒縦版の大仙市行政サービス改革・DX 推進大綱という資料のほうと最後に一枚物の意見書の3部となっております。

説明は始めこちらの横版のカラー版の資料を用いまして説明させていただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

それでは、表紙をめくっていただきまして1ページ目からご覧いただきたいと思います。はじめに大仙市のこれまでの行政改革の取組みについて説明いたします。平成17年度最初の大綱を策定し市町村合併後の行政運営の効率化や財政の健全化を図るため、組織機構の見直しや老人保健施設、保育園の法人化等に取り組んでまいりました。その後、第2次、第3次においても人口減少や少子高齢化、地方交付税の合併特例期間の終了などの課題に対して、自主防災組織や地域スポーツクラブの設立など市民の皆様との協働のまちづくりの推進や、公共施設や道路の維持管理の適正化の取組みを進めてきました。そして第4次となる大綱では「行政サービス改革大綱」と名称を改め、人材や財源など限られた資源の最適配分と、質と量の視点から、「市民の目線に立った行政サービス向上」を目指し、コロナ化を経て急速に進んだデジタル化にも対応しながら、書類への署名・押印の必要性を見直し、ご自宅からでもスマホ等から手続きできるオンライン申請やコンビニでの証明書の交付、窓口においてはキャッシュレス決済の導入や、マイナンバーカード等を活用し書類への手書きの負担を軽減するシステムの導入等に取り組んでまいりました。こうしたこれまでの取組も踏まえ、来年度から5年間を計画期間とする次期大綱は「行政サービス改革・DX推進大綱」として、市民の視点からの将来を見据えた行政サービス最適化を目的に「行政改革」と「デジタル変革」を推進していくものとしております。

次に2ページ目をご覧いただきたいと思います。こちらは次期大綱の体系をお示したものです。人口減少や少子高齢化の課題、市民一人ひとりのニーズに寄り添った対応を継続、向上させていくため、限られた職員数、財源の中でも最大限の効果を得られるよう、行政改革とDXの2つの視点と方法から切れ目なく取組を進めてまいります。基本方針は「将来を見据えた、行政サービスの最適化」とし、各施策共通の目指す方向性については記載の5つの方向性を設定いたします。

1つ目といたしましては、分かりやすさ、簡単さ、速さが実感できる市民サービスへの転換です。各取組において迷わず、手短に、便利になったと実感していただけるサービスへの転換を心がけてまいります。次にデジタルファーストで行政サービスを創り替えるデジタル変革、そして3つ目のデジタル技術・データを最大限に活用した付加価値のあるサービスの提供です。作業の自動化や短縮など、デジタル技術の活用は効率的な行政サービスに欠かせない要素となっていることから、これまでの慣例等に捉われずデジタル活用を基本とした改革を推進し、新たに実現可能となる行政サービスを提供してまいります。次に社会の進展や変化に合わせた柔軟・迅速なBPR（根本からの業務改革）と人材育成です。人との接触を避

けられる仕組みや急速なデジタル化の進展など、時代の社会情勢に合わせた柔軟な対応と実践できる人材の育成に取り組んでまいります。最後に5つ目の省力化・効率化と新たな財源確保、市民との協働による持続可能な行財政運営です。引き続きムダの無い効率的な財政運営と、市民の皆様との協働・共創のまちづくりをすすめてまいります。

これらの方向性により、次の4つの重点取組を実施してまいります。こちらの重点取組の内容につきましては、お配りしてます資料、白黒縦版のほうの大綱資料によりご説明いたします。16ページをお開きください。

こちらは重点取組のまずは1つ目になりますけれども、市民に寄り添い繋がるサービスの促進でございます。オンライン申請や分かりやすい窓口、情報発信の強化で、いつでもどこでも、誰にでも便利な市役所を提供できるように目指してまいりたいと考えております。内容といたしましてはいつでもどこでもオンラインや身近な場所でサービスが受けられる市役所、分かりやすく、簡単に、1か所でスムーズに用事が済ませられる窓口、市の情報が見つけやすく、分かりやすく、必要な人にだけ届く情報発信などに取組むものとしております。

17ページに入りまして、2つ目のDXによる豊かさと新たな価値の創出です。こちらは、マイナンバーカードやスマートフォン、AIの活用やデータ連携により、利便性の高い新たなサービスの導入や、新たな価値の創出を目指してまいります。こちらは、デジタルに不慣れでも知らずのうちに恩恵が受けられる誰一人取り残されないデジタル化の推進や、システムやデータの連携により素早く給付などの施策を実施できる体制の整備、地域経済の循環を促す、暮らしの豊かさを向上させるデジタル化、AIの活用やデータの高度な連携による、手続きに必要な書類を少なくし便利さ、簡単さの推進を図るなど、公共サービスの高度化などに取組むものとしております。

次に18ページをご覧ください。3つ目のデジタル社会に適応した行政基盤の構築です。デジタル技術を活用した業務の生産性・能率の向上や効率化、デジタル人材の育成など、デジタル社会に適応した行政基盤を構築してまいります。内容といたしましては、新しい発想や技術で業務の生産性と能率の向上を図る取組や、通知物のデジタル化などペーパーレス化のさらなる推進、国全体で進める行政システムの標準化・共通化への対応や、より強固なセキュリティを実現するシステム・ネットワークの最適化、それらを活用し業務プロセスの抜本的な見直しと再構築が実践できる人材の育成などに取組むものとしております。

19ページをご覧くださいと思います。最後4つ目の健全で持続可能な行財政運営となります。限りある行政資源を効率的に活用し、将来にわたり持続可能な財政基盤を確立します。内容といたしましては、再生エネルギーや民間活力を利用した公共施設のコスト適正化と施設廃止の経費削減や、市の資源や魅力を活用し磨き上げ、価値を高め新たな財源確保を図る取組、資格や意欲のある市民との協働を図る人材バンク制度、最小の経費で最大の効果をあげるため施策の選択と集中を図るEBPM「根拠に基づく政策立案」の促進に取り組むものとしております。

資料のほう戻りまして、先ほどのカラー横版の資料の3ページ目をご覧くださいと思います。ただいま説明して参りました施策を推進していくための体制についてこちらのほうでまとめております。

庁内の組織として行政改革推進本部、幹事会、行革推進チームが連携し、全庁体制で行政改革に取り組んでまいります。また、右側の市議会、地域協議会、地域情報化推進委員会、市民の皆様からのご意見等をいただきながら、大綱の策定や施策の推進を図ってまいります。施策の推進状況は広報等で定期的に公表し、適宜計画の見直しを実施しながら取り組みを実施してまいります。

最後4ページ目となります。大綱の策定スケジュールとなります。今後10月にかけて全地域の地域協議会に、本日と同様に説明とご意見等を頂きにお伺いしてまいります。頂いたご意見を基に現在の素案の修正・改善を行い、10月に開催する行政改革本部会議に諮り、草案の策定へと進めてまいります。来年1月には草案をもって、市民の皆様から広くご意見を募集するパブリックコメントを実施し、必要な見直しを行って成案に仕上げてまいりたいと考えております。

駆け足ではございましたが、説明は以上となります。よろしくお願いいたします。

○会長

はい、ありがとうございました。ただいまの説明につきまして、ご質問やご意見がございましたら挙手の上発言をお願いいたします。何かございませんでしょうか。

はい、伊藤委員。

○伊藤伝悦委員

デジタルトランスフォーメーションというのは、今の時代にとってこういう流れになるであろうと思いますが、ただ、この資料の中でもものすごくカタカナが多いですね。横文字を使うことに、例えば内館牧子さんなんかはものすごい不評なんですけど、なんで日本人なのに日本語でしゃべらないのと。聞こえはいいです。これ、デジタルなのにアナログな表現にすることも全く知的じゃないとは思いますが、これなんとでしょうね。私もだいぶ昭和の人間なので、例えばデジタルガバメント、トランスフォーメーション、随所に、13ページの中でもヒト・モノ・カネ・ジカンこれもカタカナで表現されています。なんかこう冷たいなあと。エビデンスとかね。よく聞くんですが、そうでないと、DXできないですかね、そもそも。どうですかね。

○DX推進課長

ご指摘ありがとうございます。我々も議会のときもあるいは外部で説明するときもすぐ新しい言葉が出てきてそれをそのまま使っちゃって、行革の人にしかわからないというお叱り、ご指摘常にいただいているところでございます。あくまでこういった計画は相手にわかってもらわないと意味が無いし、自分たちが考えていることしっかり伝わらないと意味がございませんので、ご指摘の通り表現の言葉、単語等については、改めて最大限気を使ってちゃんと従来のような言葉に言い換えられるようなところは、あえてカタカナや英語は使わずに分かりやすい日本語を使用するように十分気を付けて施案をつくってまいりたいと思います。

○伊藤伝悦委員

ありがとうございます。大仙市バージョン（の説明資料）があってもいいと思います。

○DX 推進課長

はい、ありがとうございます。

○会長

何かございませんでしょうか。はい、佐渡委員。

○佐渡敏夫副会長（以下、「副会長」と表記）

私も3,4年ほど前まで地域情報化推進委員をさせてもらってまして、今回は委員会開いていく予定みたいですが、この推進委員会の役割的にはどの程度、例えば議会にかける前に揉んでもらうとか、どういった役割なのかわかる範囲でおしえてもらいたいです。

○DX 推進課長

昨年度から情報関係といいますと、地域情報化推進委員会に合併のあたりからやってまいりましたが、いよいよデジタルというのが役所の全局に関わってくるところでございまして、今までは地域情報化推進委員会と地域情報化計画をセットで揉んでもらいながらやってきたというところございますけれども、地域情報化計画についてはより広範囲に役所の業務関係してきたことからDX推進ビジョンというものにかわりまして、そちらの方に包括してきた経緯がございます。それが3,4年前からで、今般新たに行革の計画をつくるにあたりまして、推進化委員会の地域情報化計画が事実上こちらの方に包括しているということなので、計画そのものをやってもらうということで、地域情報化の推進委員会の皆様からも現在は、推進委員会自体は年1回程度開催しておりますけれども、こちらの計画についてよりデジタルの部分に、デジタル側の視点からご意見を頂戴するような形ですすめております。

○副会長

はい。ありがとうございます。

○DX 推進課長

（地域情報化推進委員について）大変お世話になりました。ありがとうございました。

○会長

はい、ほかに。はい、佐藤委員。

○佐藤喜八郎委員（以下、「佐藤委員」と表記）

DXとあるんですけども、この説明書では、デジタルトランスフォーメーション(DX)と書いてある、これは何の略でDXというのか、英語で書くとXではないが。

ODX 推進課長

私も納得していないんですけども、デジタルトランスフォーメーションを二文字で略語にすると、トランスフォーメーションってTなんですけどもXになるそうです。

○佐藤委員

そこをちょっと聞きたかったのと、それこそさっき伊藤（伝悦）委員が言ったようにますますわからなくなってくるのでそこをちょっと工夫してもらいたい。それとパソコン・スマホを使った手続きの扱いですが、ここにいる委員も高齢者が半分以上なわけです。わたくしの場合特にそうですがパソコン・スマートフォンを完全に使いきれない、使えない、そういう住民に対してどのような対応をしていくのか、あるいは使える人はいるのかいないのか、その辺をよく調査されて高齢者にもできるような勉強会をやっていただきたいと思います。

ODX 推進課長

はい。ありがとうございます。貴重な御意見ありがとうございます。今日頂いたご意見を反映させながら計画を進めていきます。ありがとうございます。

○会長

はい、ほかに。はい、進藤委員。

○進藤覚委員（以下、「進藤委員」と表記）

私は推進委員会に参加させていただいております。初めてだったので、あんまり委員の扱いが分からないのであれだったんですけども、このデジタル化今後進めていくと思うんですけども、進めていかなきゃならないと思うんですけども、やっぱり地域差があるので、高齢者を特にこの南外においては。誰一人取り残されないデジタル化の推進とあるんですけども、やっぱりどうしても高齢者は取り残されるということになると思うので、支所にしても「人」ベースがどんどん減らされていくのかなと思いますが、その辺はどうなんですか。

ODX 推進課長

当然全部の仕事をデジタル化、あるいは市民の皆さんにデジタルを強要するということは今後求めているかと言われればそうではない、それではやっていけないと思っております。1つがまず、今デジタルでやってもらうことによって便利になる仕事、あるいは内部のほう効率化してやれるところはやっていって、同じ業務でもやはり対面でやっていかなければならない部分が必ず残っていくと思っております。ただ、人口は減っていきます。職員も減らさなければならないというのは今見えているところなので、そういったところに人でなければやっていけない、職員がちゃんと顔を合わせて窓口でやっていかなければならないところにその分の資源といいますか、職員の確保をしていくためにも、そうでないデジタルで逆に便利になって、夜間とか若い人からは日曜とか夜間とかに役所に来ないでオンラインで申

請してもらいましょう、その分件数処理する分が市役所の内部のほうが効率化する部分が出てくるはずです。そういったところで、職員の、内部の効率化させながら職員が減っても従来の対面や人でなければできないところで対応できる職員を確保していくという二本立ての方針でデジタル化しましょうということで今後進めていきたいと考えております。

○会長

はい、そのほかに何かございませんでしょうか。今日一通り説明を受けたわけですが、ほかに何かご意見、ご質問等がございましたらなかに意見書がありますので、後日でも結構ですので FAX で送っていただければというふうに思います。

他にご意見なければ、この案件につきましてはこれで終了したいと思います。DX 推進課の皆さんはここで退席されますので、説明ありがとうございました。

○DX 推進課長

どうもありがとうございました。またお気づきところありましたら、個別具体的なことで結構ですので、どうかお寄せください。本日はどうもありがとうございました。

○会長

続きまして議題②の「南外地域彩色千輪プロジェクトに関する報告」について事務局より説明をお願いします。

○地域活性化推進室副主幹

それでは議題②「南外地域彩色千輪プロジェクト」に関する報告について説明させていただきます。資料 1 の「南外地域彩色千輪プロジェクト」事業報告をご覧ください。それでは、令和 7 年度南外地域彩色千輪プロジェクトの進捗状況について、資料に沿って説明させていただきます。

初めに、地域の方向性「自立してコンパクトな南外」ですが、地域住民の防災意識の醸成を目的とした防災関連イベントの実施については、7 月 5 日に「防災教室 in 南外」として、南檜岡コミュニティセンターを会場に実施済みです。この事業に関しては、毎年 2 回実施している「みんなのきよてんまつり」の一環として実施いたしました。残りの 1 回は、例年同様に冬期間 3 月上旬頃の開催を予定しています。

続いて、「子どもからお年寄りまで元気で安心な南外」ですが、こちらでは「地域おこし協力隊活動関連事業」ということで、今年から南外支所に配属となっている地域おこし協力隊員による「南外さいかい市の活動支援」や「地域住民同士の交流促進」をテーマにした事業を実施中です。主に取り組んでいる業務については、「南外さいかい市の事業サポートや各種情報発信」となります。右側の QR コードですが、毎週月曜日に厚生医療センターで実施している出張販売の事前告知になります。こちらも業務の一環として実施しています。この他にも、「住民交流ワークショップ」の開催や地域情報の発信を目的とした「フリーペーパー」の発行を年度内に実施する予定です。詳しい活動内容については、次の議題③で説明させてい

たきます。

続いて、管内保育・教育機関との連携強化（南外中学校「地域とつながる！」プロジェクト）ですが、実施内容については、前回の協議会の際に説明させていただいておりますが、学年ごとの進捗状況について、説明させていただきます。資料裏面をご覧ください。上が「堀井徳五郎昔ばなしかるた作成事業」になります。学年が「2年生」となっておりますが、「1年生」の取り組みになります。修正をお願いいたします。1年生が取り組んでいる昔ばなしカルタですが、完成しているものを載せておりますが、この他に作業途中のものもあるため、そちらは授業の隙間時間などを活用して作業を進めていただいております。9月中の完成を予定しており、完成品を使って10月2日（木）に1年生徒と「南外さいかい市健康サロン」などの利用者との「昔ばなしかるた」体験交流会を実施する予定です。それ以外でも南外小学校児童との交流会なども予定しています。下の方は「3年生」が取り組んでいるミニコミ誌づくりになりますが、こちらは3つのグループに分かれて、南外の「人」や「特産品」、「温泉施設」などをテーマにして3冊の冊子を作成中です。こちらは各冊子の表紙になりますが、今後校正を進め、10月中の完成を目指しています。出来上がった冊子は、公共施設や地域祭などでの配布を予定しています。

続いて、資料2をご覧ください。こちらは、2年生が取り組んでいた「がんばれ！南外さいかい市」応援事業 in あきた元気ムラ大交流会の事業紹介になります。

ご存じのとおり、南外中学校2年生と大仙市地域おこし協力隊と協力し、地域の買い物問題などの課題解決に取り組んでいる「南外さいかい市」のPRを目的に昨年度から実施している事業で、今年は9月6日に開催された秋田県主催の「あきた元気ムラ大交流会2025 in だいせん」へ模擬店舗「南外ミニさいかい市」を出店しました。「あきた元気ムラ大交流会」は、毎年県内各地域持ち回りで開催している県主催事業で、昨年度の取り組みで「あきた県庁出前講座」を活用していたこともあり、今回の出店については早い段階から県より提案されていきました。今回の出店は、全県規模のイベントということもあり、「南外さいかい市」の活動や「南外中学校」の取り組みを地域内外の方からも広く知っていただけるようにイベント開催に向けて5月から準備を進めてきました。右側の写真が今年の「南外ミニさいかい市」になります。裏面をご覧ください。イベント当日は、さいかい市の事例発表も実施され、約250人の方が来場されました。事例発表後に行われたPRコーナーでは、当日参加した2年生全員でステージに登壇し、実際に販売した野菜やクッキーを使って身振り手振りで、店舗をアピールし会場を盛り上げていました。その後に、実際に販売を行いました。イベント自体が正午からの開催で、販売時間も1時間半という限られた時間での販売となりましたが、写真のとおり販売中はお客さんの列が途切れることが無く、当日持ち込んだ9割以上の商品を売り切ることが出来ました。売り上げも昨年の地域祭よりも大幅に増え、約8万円という成果をあげることが出来ました。今回の取り組みは、南外を出て地域外での活動ということで生徒も私たちも手探りで活動となりましたが、様々な地域からこられた方との交流など、今後の学校生活に役立つ経験を得られたのではないかと思います。下の方に載せているQRコードから、生徒が授業の中で作ったイベントの事前告知動画をご覧ください。事が出来ますので、お時間が有る際にご確認いただければと思います。次のページは、イベント翌日の秋田

さきがけ新聞の記事になります。イベント全体の記事にはなりますが、ほとんどが「南外さいかい市」や「南外中学校」に関する内容となっており、こういったことからたくさんの方に南外を知っていただく貴重な機会になったと感じております。

また、下の記事についてですが、既にご存知のかたもいらっしゃると思いますが、こちらは、9月29日（月）に秋田キャッスルホテルで開催される「地方創生2.0対話フォーラム」に関する記事になります。こちらに南外さいかい市の佐々木繁雄事務局長が秋田県の代表として登壇されます。こちらは、入場無料で先着300名となっておりますが、先日の時点で200名程度ということでまだ申し込み出来ると思いますので、ご都合がよろしいようでしたらぜひご参加いただければと思います。

議題②についての説明は以上になりますが、今年は来年度に向けて予算編成が若干早まる見込みとなっております。南外地域に関しては、令和4年度に実施した「子育て世代を対象にしたアンケート」や、地域協議会の皆さんからいただいた意見をもとに事業を行っております。来年度の事業についても、今年度に引き続き「きよてんまつり」の開催や、小中学校との連携事業、堀井徳五郎翁にちなんだ事業の実施を予定しておりますが、委員の皆さんからも来年度の実施事業について、ご意見やアイデア等をいただければ積極的に取り入れさせていただきたいと考えておりますので、併せてご協議いただけますようお願いいたします。

以上で、議題②についての説明を終わります。

○会長

はい、ありがとうございました。ただいまの説明について、ご質問やご意見がありましたら挙手の上、発言をお願いします。何かございませんでしょうか。はい、佐渡委員。

○副会長

はい。資料1の3年生のミニコミュニティ誌のことなんですが、差支えはないかと思うんですが、出羽鶴の「鶴カップ」。これ今現在製造しておりません。別に前あった商品なのでいいかと思うんですが、もし間に合うようでしたら別の商品に差し替えを検討してみてもはどうでしょうか。

○地域活性化推進室副主幹

このミニコミ誌の校正なんですけれども、3年生のほうも修学旅行があって作業が滞っておりまして表紙だけ載せさせていただいたんですけれども、中身のほうも手直しとか必要な部分結構ありまして、これから写真とか出ていただく方の確認なども含めて万全の体制でチェックしたいと思います。

○会長

はい。その他に何かございますでしょうか。はい、伊藤委員。

○伊藤伝悦委員

「おんざっか」って何のことでしょうか。

○地域活性化推進室副主幹

下の方にある「おんせん&ざっか」と書いてあるので、そこを文字って生徒たちが考えてこういうテーマにしたのかなと思われます。

○伊藤伝悦委員

「鶴カップ」2年前になくなったということですが、(ミニコミ誌は)2年前に作ったものですか。

○地域活性化推進室副主幹

この写真、実は取材時間設けて実際出羽鶴さんとか直接見に行ったりはしたんですけども、取材もしたりはしてるんですけども、生徒たちが自分の端末使ってインターネットから拾ってきた画像もあって、そういったところも確認しながら作っていかなければならないなと思っておりますので、もし何かありましたら連絡いただければと。

○会長

はい、そのほかに何かございませんでしょうか。ないようですので、ここでこの議題に関する話し合いを終わりたいと思います。

続きまして議題③の「地域おこし協力隊活動に関する報告」について事務局より説明をお願いします。

○能條恵美子隊員（以下、「能條隊員」と表記）

地域おこし協力隊の能條です。4月からの活動報告が大変遅れまして、申し訳ございません。では、これまでの活動報告をさせていただきます。現在さいかい市で定期的にさせていただいているのは、月曜日の通院支援の大曲厚生医療センターの出張販売と水曜日の特産クッキーと山科作りです。その他健康サロンやどやくのたまり場にお手伝いさせていただいております。その他はさいかい市で人員が足りないところでもお仕事させていただいております。外での活動もさせていただいておりますので、一部報告させていただきます。

資料3の1ページから報告させていただきます。4月25日開催の出羽鶴の宵の星々の種まきに秋田大学益満ゼミの学生さんたちと出席いたしました。学生さんたちと一緒に種まきをしながら、この種が無事に実りますようにという思いで出席させていただき、この様子は2ページにありますので、ご覧ください。

次に3ページの報告をさせていただきます。5月21日開催の出羽鶴の宵の星々の田植えに出席いたしました。秋田大学の益満ゼミの学生さんたちと田植えをしました。酒米の種まきから1カ月後、苗が大きく育ち、葉の色が濃い緑色で生き生きとしてきれいでした。時々雨の降る天候でしたが、一人ずつ田植え機械に乗りまっすぐ植えるコツを教えていただ

きました。手植えの所は足を取られてなかなか大変でしたが、無事終了しました。4ページにこの様子を載せさせていただきましたのでご覧ください。それから本日稲刈りをしてきました。自分たちが関わってきた稲が立派に実っておりましたのでほっとしたのと同時にとてもうれしく思いました。これからおいしい宵の星々ができるのを楽しみにしております。

次は5ページのほうの報告をさせていただきます。こちらは水曜日にさいかい市の皆さんと特産品のクッキーと山科をつくらせていただいているところになります。クッキー、山科は大変人気ですぐに売り切れになっています。手作りですので一日平均120枚ほどと山科30個ほどしかできないんですけれども、これからもう少し増産できたらと思っております。その様子を6ページに載せさせていただきましたのでご覧ください。

次7ページのご報告をさせていただきます。こちらも現在毎週月曜日に、医療機関に通院される方たちの送迎及び送迎の待ち時間に大曲厚生医療センターで出張販売をしております。こちらも毎週月曜日にさいかい市の出店がされているということですので楽しくにされている方がいて、来週も来ますよね、という感じでお声をかけていただいて売り上げも少しずつ伸びておりますので、これからも続けていきたいと思います。その様子を8ページに載せましたので、ご覧ください。

次9ページのご報告をさせていただきます。こちらは7月22日にさいかい市視察研修としてJA直売所の岩手の「来夢くん」というところに皆さんと一緒に参加させていただきました。さいかい市の18名の皆さんと参加させていただきました。JA直売所の野菜や果物は価格的に安価ではないもの、産直ならではの新鮮さや種類の豊富さが魅力だと思いました。その他特産品としての漬物やお菓子などのほかにさいかい市でもより多くの特産品ができればもっと周知されて道の駅や駅のショップ、スーパーなどに出品できると思います。特産品を冬の農閑期でもできるようになれば、忙しいながら皆さんとのふれあいや、収益を出すことによって、やりがいや心身の健康にもつながると思います。さいかい市に野菜を出品しても売れ残ってしまうことが多いので、新鮮なうちに加工することや移動販売をするなどして、皆さんの生活がよりうるおい、今よりもっと楽しめる南外にしていきたいと思います。皆さんとお買い物やお食事ができてとても楽しく参加させて頂きました。ありがとうございました。その様子を10～12ページに載せさせていただきました。12ページは来夢くんでは皆さん気になるものを買って懇親会があり、参加させて楽しい時間を過ごさせていただきました。

次13ページのご説明をさせていただきます。南外地域以外でも活動しておりまして、8月9日にタカナシコミュニティガーデンにて夏の移住者交流会夏野菜収穫&ピザ作りというところで他の協力隊の皆さんと一緒に参加させていただきました。開催された移住者交流会には、参加者35名、スタッフを含めると総勢42名が集まり、大盛況となりました。東京在住の台湾の方や、インスタをきっかけに訪れた香港の方も参加され、笑顔あふれる国際色豊かな時間に。帰省中の方やタカナシコミュニティガーデンで知り合った仲間たちも集まり、家族連れの参加も多く、会場は終始にぎやかな雰囲気になりました。野菜の収穫や手づくりピザづくりでは、子どもたちが目を輝かせながら参加し、できたてをほおぼる姿がとても微笑ましく、会場中に笑顔とおいしい香りが広がっていました。当日は大仙市移住ガイドブックも配布され、市の魅力や暮らしの情報を紹介。移住後も気軽に友だちを作れる場所とし

て、タカナシコミュニティガーデンの魅力も語られ、未来へのつながりが生まれるひとときとなりました。また、南外でもこのようなイベントができるといいなと思いました。14ページにこの様子を載せさせていただきました。

さいかい市では、9月11日から本庁に毎週木曜日の夕方から総菜や野菜等の出張販売を始めました。試験的ではありますが、こちらも好評ですので持続できたらと思います。これからも頑張りますのでどうぞよろしくお願いいたします。以上です。

○会長

はい、ありがとうございました。ただいまの能條さんの活動報告につきましてご質問、ご意見がございましたら挙手の上、発言をお願いいたします。はい、加賀委員。

○加賀正夫委員（以下、「加賀委員」と表記）

はい。能條さんにはさいかい市で大変ご難儀をかけております。私たちも気づかないところとか、新しい考えというか、今までの経験してきたことを出してもらっています。先週から本庁への移動販売も能條さんに段取りしていただいて、第1回目から本当に盛況でした。職員の方がたくさん来て、列作って本当に盛況でした。ただ、総菜をつくる方々が大変だと思うのでこれからもよろしくお願いいたします。

○会長

さいかい市はこの地域ではかなり注目されているところですので、ぜひ頑張ってくださいと思います。

はい、他に何かございませんでしょうか。はい、佐藤委員。

○佐藤委員

能條さん、大変お疲れ様です。タカナシコミュニティガーデンってあったんですけれども、南外の移住者っていうのはどのくらいいらっしゃるのか、そしてそのPRの仕方、それから勧誘等簡単に聞かせてもらいたいと思います。

○地域活性化推進室副主幹

移住者に関しては、本庁に移住定住促進課というのがあるんですけれどもふるさと納税ですとかそういったものの対応をしています。移住の定義といいますか、窓口で手続きして転入だとかあると思うんですけれども、地域に魅力を感じて来られる方の人数については支所単位では把握できていなくて、移住者に関するPR制度に関してはホームページにはなるんですけれども移住者を対象にした引っ越しの助成ですとかそういったものも活用しておりますので、だいぶ増えてきているのではないかと思います。正確な数字については把握できておりません。

○佐藤委員

はい、わかりました。

○会長

はい、ありがとうございます。それではほかに、はい、伊藤委員。

○伊藤委員

タカナシコミュニティガーデンは高梨小学校の向かいにあるところですか。

○能條隊員

はい。あそこでいま畑をされていて協力隊も協力しながら移住されてきた方と一緒に、田んぼや畑に興味ある方がそこに集まって、コミュニケーションをとる場所にしています。若い方がいらっしゃってます。

○会長

はい、ほかになにかございませんでしょうか。ないようですので、ここでこの議題に関する話し合いを終わりたいと思います。

続きまして議題④の「地域枠予算事業に関する報告」について事務局より説明をお願いします。

○照井地域活性化推進室主事（以下「地域活性化推進室主事」と表記）

議題④、地域枠予算事業に関する報告について説明させていただきます。「地域枠予算事業説明書」をご覧ください。裏面には各団体から提出のあった予算書を添付しておりますので併せてご覧ください。

はじめに、市民協働型「第11回南外地域運動会補助事業」です。資料4、1ページをご覧ください。補助金申請はまだですが、現時点で決定している内容を報告させていただきます。こちらは10月4日（土）に開催予定の事業で、継続事業となります。この事業は人々のふれあいが少なくなっている現状を鑑み、事業開催をとおして世代や地域を超えて南外地域の絆を深めることを目的としております。会場は南外小学校グラウンドです。補助金交付予定額は30万円で、補助金以外の収入として6,380円の繰越金等が見込まれております。裏面2ページの運動会予算（案）をご覧ください。予算額は、消耗品費で189,400円、印刷製本費で110,600円、役務費で6,380円、あわせて306,380円となっております。

次に市民主導型「あきた里山プラス木工体験事業」です。資料4、3ページをご覧ください。こちらは、10月26日（日）に開催予定の事業で、住民が身近にある里山のめぐみに目を向け、地域の自然資産の利活用を見直すため間伐材等を活かしていくことや木材をつかったゲームの実施により森林資源に親しむことを目的としています。木工クラフト体験や里山自然パネルの展示、モルックゲームを計画しております。会場は公民館前の車庫内で、昨年同様南外地域祭と同日開催となります。9月12日に申請を受け付けており、補助金交付

額は 136,000 円を予定しております。当初予定していた補助金額は 100,000 円でしたが、今年から新たにモルックゲームを取り入れたことで経費が増額したことから、補助金額を 136,000 円に増額しております。また補助金以外の収入として 44,410 円の協力金や自己負担金が見込まれております。裏面 4 ページの収支予算書をご覧ください。予算額は木工体験の指導者謝礼及び旅費やゲームの景品等の報償費でおよそ 67,210 円、木工キットやモルックコート設営資材等の消耗品費・原材料費等でおおよそ 108,200 円、役務費・借り上げ料で 5,000 円、あわせて 180,410 円となっております。

最後に市民主導型「南外民俗祭開催事業」です。資料 4、5 ページをご覧ください。こちらは、11 月 2 日（日）に開催予定の事業で、継続事業となります。この事業は、地域の伝統や文化を継承し、南外の魅力を地域内外へ発信することで地域の活性化へ繋げていくことを目的として開催しているものです。愛宕神社の神楽や南外民謡保存会の演奏などのステージ発表やワークショップの実施を計画しております。会場は昨年同様南外ふれあいパークで開催予定です。なお雨天時は南外コミュニティセンターでの開催となります。昨年度は「南外民俗音楽祭」として開催しておりましたが、今年から「南外民俗祭」に名称を変えております。また、今年から大仙市後援の事業となります。9 月 5 日に申請を受け付けており、補助金交付額は 300,000 円です。補助金以外の収入として 97,000 円の任意観覧料や飲食店出展料などの自己資金を見込んでおります。裏面 6 ページ南外民俗祭実行委員会令和 7 年度予算書をご覧ください。予算額は、イベント参加者への謝礼や参加賞等の報償費で 260,000 円、音響機材等の借り上げ料やチラシ作成の委託料で 75,000 円、消耗品費や印刷製本費、食糧費等で 62,000 円あわせて 397,000 円となっております。

地域枠予算事業については以上となります。

○会長

はい、ありがとうございました。ただいまの説明につきまして、ご質問やご意見等ございましたら挙手の上、発言をお願いいたします。はい、加賀委員。

○加賀委員

まずあの運動会の予算ですけれども、実行委員長としてプログラムを全戸配布して申込書も配布していたんですけれども、なかなか申し込みが少なくて会議がこれからあるんですけれども皆さんから意見お伺いしたいなと思っています。運動会って行かなくていいだろうなと考える人が多いとは思うんですけれども、あまり走る競技少なくして、借り物競争とかどじょうすくいとか考えているんですけれどもなかなか人が集まってもらえなくて苦労している状況なんですけれども、皆様からなにかいいご意見がありましたらお伺いしたいなと思っています。

○副会長

はい。いいですか。同じ実行委員会として聞くのも変な話なんですけれども、第 1 回の実行員会の時に一応自由参加ではあるけれども、各地区の推進委員に働きかけはしてもらうこ

とだったと思うのですが、そこらへんはどうでしたか。

○加賀委員

はい。あの一応推進委員に通知をだして取りまとめをしてくださいというのを出していたのですが、なかなか集まりませんでした。

○会長

はい、ほかになにかご意見ございませんでしょうか。はい、佐藤委員。

○佐藤委員

木工体験を今年もやらせていただきます、代表の佐藤です。説明のとおりなんですけれども、予算額とありますが、事業額と予算額にずれがあるのですがこれはどういうことでしょうか。

○地域活性化推進室副主幹

本来であれば、補助金額を記載する部分であります。木工体験資料は事業費を記載してしまっておりました。予算額を 136,000 円に訂正をお願いいたします。

○会長

ほかに何かございますか。はい、佐藤委員。

○佐藤委員

はい。木工体験で今年新しくモルックゲームというのをやります。実は昨日ちょうどやってきて小学生が対象だったんですけれども、ものすごく盛り上がってびっくりするほど声を上げて笑ったり手たいたり非常にいいゲームでした。ぜひ、南外にも浸透させていただきたいと思っております。もし必要でしたら、貸し出すことも可能ですのでお声がけ下さい。

○会長

はい、ありがとうございます。あの運動会につきましては、これからまた会議があるということでしょうけども、人に集まってもらうのも大変だと思います。どうか皆さんからもご参加いただきたいと思いますのでどうかよろしく願いいたします。

ほかに、ないでしょうか。なければこの議題に関する話し合いを終わりたいと思います。続きまして次第4の「その他」に入りたいと思います。事務局より説明をお願いします。

○地域活性化推進室副主幹

はい、前回の協議会の際に佐渡副会長の方からお話しありました、11月7日開催予定の西部合同研修会の帰りのバスの話があったかと思うんですけれども、会議後にたつみさんの方に確認しまして、神岡支所経由南外支所までバス1台OKということで、了承いただきま

したのでこの場を借りてご報告をさせていただきます。

○会長

はい、ありがとうございます。その他につきましてなにかございませんか。なければその他につきましても終了したいというふうに思います。本日の会合はこれで終わりたいと思います。次回の会合は、11月下旬を予定しております。詳細は後日事務局を通じてお知らせいたします。

これをもちまして、令和7年度第3回南外地域協議会を閉会します。おつかれさまでした。

(19時30分 閉会)

南外地域協議会運営規程第7条第2項の規定によりここに署名する。

会議録署名委員

佐 藤 喜八郎

進 藤 覚
